

JOGMECによるセントラル調査について

2024年7月22日

経済産業省資源エネルギー庁

国土交通省港湾局

「セントラル方式」の推進とJOGMECによる調査

- 洋上風力の案件形成における課題として、複数の事業者が同一海域で重複した調査を実施し非効率であるほか、それに伴い地元漁業における操業調整等の負担が生じている。
- これら課題を解消するために、案件形成の初期段階から政府が主導的に関与し、より迅速・効率的に調査等を実施する仕組（セントラル方式）の一環として、JOGMEC（※）が風況や海底地盤調査を実施。調査結果については、公募に参加する事業者に提供し、公募で選定された事業者からは調査に要した費用を回収する方針。
- 2023年度から調査を開始（各海域2年間をかけて調査）。現在、①北海道岩宇・南後志地区沖、②北海道島牧沖、③北海道檜山沖を対象に調査中。2024年度からは、①及び②のさらに沖合（浮体式）の海域に加えて、山形県酒田市沖を対象に調査を実施（令和5年度予算額36億円、令和6年度予算額65億円）。

「セントラル方式」における案件形成プロセスのイメージ



北海道檜山沖における海底地盤調査

- セントラル調査の一部として、海底地盤状況については、以下の調査を実施。

調査項目	調査対象	調査量等
マルチビーム/シングルビーム音響測深、 サイドスキャンソナー (SSS)	海底地形 (水深)、底質分布、人工物の有無	NEDO (シングルビーム) : 約348.4km ² JOGMEC (マルチビーム) : 約 56.2km ²
音波探査 * NEDOのみ	海底面下の地質構造	NEDO : 南北 約 1 km間隔 東西 3~4km間隔 総測線長 : 386 k m
微動アレイ探査	海底面下のS波速度構造	NEDO : 5 地点 JOGMEC : 3 地点 (実施中)
ボーリング / コーン貫入試験	土質性状	NEDO : ボーリング1地点 (約37m) JOGMEC : ボーリング4地点 / コーン貫入試験5地点 (実施中)

- 調査によって確認された現時点での海底地盤の状況は以下のとおり。*NEDO調査結果も踏まえた結果
 - ① 区域内の水深は、**40m以下が約40%、50m以下が約50%、60m以下が約60%**であり、
区域内の**最も深い箇所**の水深は約245m。
 - ② SSS及び音波探査の結果から、**沿岸部で岩盤が露出している箇所を確認。**
SSSに基づく**砂泥域と露岩域の面積比は約 4 : 1。**
 - ③ 微動アレイ探査により、**調査地点における工学的基盤深度の推定が可能なデータを取得。**
- 今回の調査によって、対象区域における**海底地盤の基礎的な情報を把握**。引き続き、事業者の詳細設計や早期運転開始に寄与するため、**ボーリング及びCPT調査などの坑井調査を進める。**

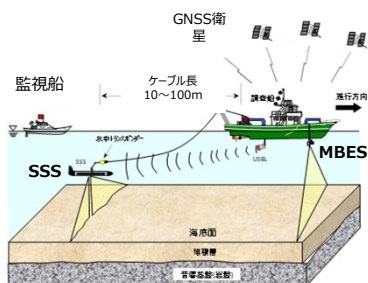


図1 マルチビーム音響測深、SSS

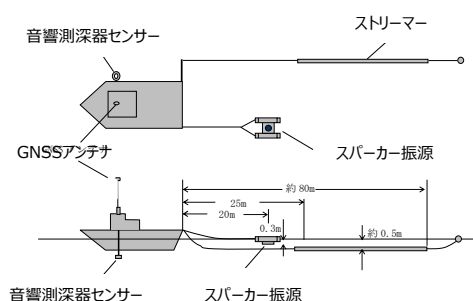


図2 音波探査(調査機器構成図・写真)



図3 微動アレイ探査の機器

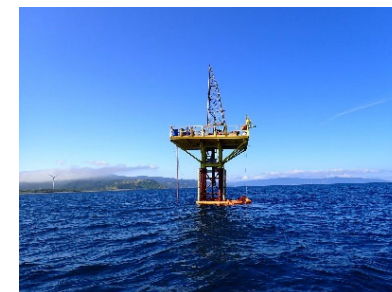


図4 ボーリング調査